

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700061		
法人名	有限会社 美作名倉堂		
事業所名	グループホーム 武蔵の里		
所在地	岡山県美作市下庄町905-1		
自己評価作成日	平成 25 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=3393700061-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25 年 2 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人本体の美作市栄町では、接骨医療をベースに身体運動器系の機能訓練を専門とした通所介護サービスをはじめ、訪問介護、地域密着型認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護等在宅介護を支える介護サービスを展開しています。今年度は、利用者様のニーズに答えるかたちで、美作市下庄町に施設型のサービス「グループホーム武蔵の里」を開設しました。利用者様に常に寄り添い、地域の皆様に愛される介護サービスを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岡山県の北西部に位置する美作市にあり、「剣豪 宮本武蔵」の生誕の地にほど近く、自然に恵まれた環境である。地元の方々の誇りでもあり英雄でもある「宮本武蔵」の名前を使って欲しいという希望により、グループホームは「武蔵の里」と名付けられている。開所1年だが、開所前より地域の方から意見を頂くなどの交流を積極的に行い、現在の絆の深さに繋がっている。夏休みには事業所の広場を提供し、子供達が毎朝ラジオ体操に通い、利用者も早起きと一緒に体操するなど自然な交流が行われている。また、法人として高齢化率の高い美作市への地域貢献に対して強い思いを持っている。利用者の希望や要望に応じていく中で、ひとつひとつ介護サービスを増やしていき、今回グループホーム開設の運びとなった。職員もオーナーの思いを理解しており、事業所は離れていても相談、協力し合っていると感じた。事業所の内部は木材を豊富に使っており、日当たりや風通しも良く、利用者も新しく清潔な建物の中で穏やかに笑顔で暮らしている姿を見る事ができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念を事務所に掲げ、毎日の業務の中で実践している。	「地域との交流の中で利用者様が楽しみや喜びを感じることができるホーム」「温かな笑顔あふれる家庭的でやさしいホーム」の2つを理念に掲げている。開所に当たり、職員みんなで考えたと同った。事務的にならないように温かい家族のように接していきたいという思いが感じられる。ミーティングの際、必ず確認をする時間を持つなど常に心にとめるようにしている。	職員が自分たちで考えた理念に向けて、しっかりと介護に取り組んでいる姿が見られました。法人や関係医療機関、行政のバックアップ体制も大きいですが、オーナー、管理者をはじめ職員が力を合わせ、日々の業務に取り組んでおられます。これからも引き続きの努力を期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民として地域行事への参加、環境整備等ボランティア活動へも参加している。	開設して1年経ち、地域とのつながりが広がりがつつある。小学校の運動会や老人クラブのイベント等、地域の方から声をかけてもらい、参加している。夏休みには事業所の広場を開放し、ラジオ体操の場として提供することで、利用者もスタンプを押してもらい、楽しみながら参加するなど事業所を知って頂く機会をなっている。また、事業所で開催した夕涼み会に地域の方が参加され、楽しい時間となった。	開設1年目ですが、地域の方とのコミュニケーションもしっかりと図れており、関係も密になっています。開所前からの地域への働きかけなど職員の努力を感じました。今後も引き続き、地域の人とのつながりが深くなっていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏休みには小学生のラジオ体操の場として、駐車場を提供。地域の方やホーム入居所も一緒にラジオ体操に参加した。このようなふれあいを通して、認知症の人への理解が地域に広がるよう、今後も努力していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において地域の方から地域行事の予定をお聞きしたり、いろいろな情報を得ている。お正月の初詣も、階段のない近くの神社を教えて頂き、ホーム入居者全員でお参りした。	2か月に1回、定期的で開催している。参加者は家族、地域包括支援センター、児童委員、区長、民生委員、美作市地域密着型サービス担当者などである。内容は行事の報告や反省、これからの行事への協力の提案、意見交換等である。地域の方が地元ならではの情報を提供してくれる等、活発な意見交換ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者の方には、会議やホームの行事をご案内させて頂き、出席やご協力をいただいている。	美作市は高齢者福祉に力を入れており、研修会の案内が多く、できるだけ参加するようにしている。何かあれば、電話や市の窓口に出向き、相談をしている。担当者も丁寧に対応してくれるため、連携が図りやすい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い方がたくさんおられるが、職員はその都度その方に合わせた声かけを行い、対応している。	玄関の施錠はしていないが、道路に面した門は施錠している。交通量も多く、スピードを出す車も多い為である。現在、身体的に拘束が必要な利用者はいないが、やむを得ない場合の対応やマニュアルも作成されている。ミーティングの際、症例を挙げながら説明や確認をする等、職員間で認識を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の機会があれば参加させている。事業所内年間研修予定に取り入れ、年1回は高齢者虐待防止についての研修を行い、職員の意識が薄れないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修があれば、積極的に参加させている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の重要事項の説明の他、契約後も随時質問に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ごとに担当スタッフを決め、担当者が利用者・ご家族とのより深い信頼関係が築けるようにし、利用者・ご家族からの意見・要望を職員に伝えて頂けやすい環境を作っている。	家族とのコミュニケーションの機会を多く作るよう心掛けている。また、担当職員より利用者の状況や様子を家族に伝え、随時意見や要望を聞き、できることは反映している。家族の希望により、処方されている薬の内容を毎月手紙と一緒に送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフミーティングを開き、職員の意見や提案を聞き、反映させている。	職員が意見を提案できる場もあり、提案を検討し、必要な事は反映している。オーナーも現場の意見を尊重しており、要望も取り入れてくれる。また、管理者と1対1で話し合いを随時行い、直接意見を言うこともできる。職員全員が開所当時から勤務しており、やりがいを持って取り組んでいると感じる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人に顧問の社会保険労務士と税理士をおき、より良い就業環境になるよう常に新しい情報を提供してもらい、職員が安心して働けるよう努めている。また、年に一度優秀な職員を表彰している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修の機会を作り、参加させている。費用を会社で負担する場合もある。また、勉強会を開いたり、シフト調整など、資格取得の支援も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美作地域で行っているグループホーム勉強会に参加させ、同業者との交流を図りながら、他事業所の良い点などを取り入れ、サービスの向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に関する情報を収集した上で、本人の困っている事、不安に思っている事を少しずつ聞きだし、安心して話して頂けるよう関係作りに努め、真の要望を汲み取れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事、不安な事をじっくり傾聴し、ホームへ入所した場合の家族の負担の軽減など具体的に説明したり、入所後の関わりなども、家族の要望を聞きながら話し合い、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に、本人・家族の状況、要望をお聞きし、一番必要な支援は何か、多方面から考えている。担当ケアマネ、ケアワーカー等とも適切な支援を充分話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は皆さん人生の先輩であり、色々の経験を経て今現在がある。利用者の経験談から、勇気を頂いたりアドバイスを受けていたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常に利用者を第一に考え、ご家族と情報を共有し本人と家族の絆を大切にすると共に、職員との絆も深め、共に利用者を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの人生、生活歴を把握し、馴染みの友人・知人の面会をお願いしてお話をしてもらったり、馴染みの場所に出向いたりしている。昔から行っている馴染みの床屋に散髪に行くこともある。	近隣からの入居が多く、家族の協力により外泊や買い物など外出も多い。また、友人の訪問もあり、それぞれのお部屋で話をしている。ドライブで自宅付近を散策し、本人の希望で突然自宅を訪ねることとなり、家族にビックリされたこともある。馴染みの美容院や散髪屋に通っている方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士のコミュニケーションがうまくいくように配席やレクなど、その都度工夫しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり、利用が終了した方のご家族からの相談に対応した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話などから、ご本人の思いを汲み取る努力をしている。困難な場合は、職員で話し合い、その方にとって最善の関わりが出来るよう努めている。	生活の中で見聞きしたことや日常会話中の言葉を大切にしている。部屋の中で1対1で話しを聞くこともある。少しの変化でもできるだけ記録に残しており、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシー保護に注意を払いながら、生活歴の情報を収集し、これまでの暮らしに近い生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや心身状態を把握し、本人の思いに沿った暮らしの支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり、本人・家族の意見や要望をふまえ、職員の気付きも含め話し合い、本人の思いが実現できるような介護計画になるよう努力している。	ケアマネが担当者からの情報や意見を参考にして介護プランを作成している。家族の方にも希望や要望を聞き、できる限り取り入れている。医療面は看護師より情報を聞き、取り入れている。ユニット毎にカンファレンスを行い、職員で意見を出し合い、利用者の生活がどうしたらよくなるかを検討している。	最初のケアプランはグループホームでの生活に慣れてもらう事を第一に考えていたが、これからは次のステップに向けて何かプラスしていきたいと伺いました。利用者それぞれに役割を持ってもらう、趣味や特性を生かした取り組みなど、職員のサポートにより利用者自身が主役と感じられる様なプラン作りを期待します。また、法人の力も活かして希望があればリハビリにも取り組んで頂くことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子やサービス内容、職員の気付いた事などを記録し、職員間で情報を共有しながらケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者を取り巻く環境や、心身状況が変われば、その都度情報を職員全員で共有し、常にその方に合ったケアを提供できるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々にご協力頂いて、レクを楽しんだり、地域の行事に参加させて頂いたり、また、グループホーム主催で行った夏祭りでは、ご家族の他、地域の子供たちや地域の皆さんにも一緒に楽しんで頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医と事業所は連絡を取り合い、適切な医療が早期に受けられるよう支援している。家族が対応困難な場合は、本人・家族が希望する医療機関を職員が付き添って受診している。	本人や家族の希望により、入居前からのかかりつけ医への受診も支援しているが、協力医療機関への変更を希望する方が多い。月に1回、往診があり、週1回、訪問看護も来所している。緊急時や夜間も連絡、相談ができ、往診でない日にも医師が訪問してくれることもある。必要があれば、歯科受診の対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置しており、介護職員は常に看護職員に報告・相談をしながらケアを行っている。看護職員は、ホーム提携医療機関の訪問看護師や医師とも密に連絡を取り合い、利用者の健康管理に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、速やかに必要な情報を提供し、医療機関担当者から治療計画などの情報交換をしている。入院中も着替えを持って行ったり、様子を伺いながら通院後の準備も進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム提携医療機関は、24時間体制で急変時にも対応して頂けることになっている。重度化した場合や、終末期のあり方、ケアの方針は本人・家族の意思を最優先し、医療機関と連携を取りながらその都度よく話し合っ決めていくことになっている。	本人や家族の希望があれば、対応する方針である。その都度、家族や医師との話し合いを行い、その都度意思を確認し、納得できる対応を行っていく。ターミナルケアや吸引方法なDVDなどを活用し内部研修を行っている。今後もターミナルケアに対する心構えなど勉強会をしていく予定。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルに沿って、実践できている。今後も定期的に訓練や研修を行う予定にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練を実施している。開設以来2回目の訓練時には、美作市消防署大原出張所に来所していただき、利用者も交えての訓練を行った。	今年度は昼間の想定で避難訓練を2回実施している。利用者も参加し、外まで避難誘導を行った。災害時の避難場所は近くの中学校や高台の公園となっているが、利用者の状態など勘案し、検討していく予定である。地域の消防団に建物の構造やどういった方が生活しているかを知ってもらい、いざという時に役立つようにしていきたいと考えている。	来年度は夜間の想定での避難訓練の実施をしていただきたい。また、緊急時には人出が足りない場合も考えられるため、消防団や自治会長など地域の方に避難訓練に参加して頂き、協力体制を築いていけることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、これまで色々な苦労や経験をされ頑張ってきた人生の大先輩であり、一人ひとり違った人生があり、誇りもある。それらを尊重しつつプライバシーも侵害しない言葉かけ、対応を心掛けている。	「家庭的で優しいホーム」という理念の沿って、家族のような声かけを心がけている。開所当初より、言葉遣いについて考え、職員がお互いに気付いたことは注意し合っている。法人で医療・福祉にあった接遇マナーの勉強会も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話を大切にし、その中で話し方や表情等から本人の思いや希望を汲み取り、自己決定を促す言葉かけ、対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望のある利用者には毎日入浴してもらったり、利用者の希望にそった生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣服をご用意する際には、本人に選んでもらったり、希望をお聞きして選んでいます。理美容院にお連れしたり、出張美容サービスを利用して整容し、ご家族にも喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前には嚥下体操をして、食事がより楽しみになるよう支援している。できる方には積極的に準備や片付けも手伝ってもらっている。日々の会話の中で好きな物等を把握し、献立に取り入れている。	利用者の好きなものや希望、旬の物を取り入れ、献立をたてている。誕生日にはその人が食べたいというものを用意する等の工夫もみられる。調理は職員が中心だが、野菜の皮むき、後片付けなど利用者も一緒に出来る事はしている。外出も兼ねて外食の機会も設けており、食事を楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形態は、利用者一人ひとりに合わせている。摂取量、排泄量を記録し、体調を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、自身で行うのが困難な方には職員が介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の薄い方に関しては、その方のリズムを把握し、リズムに合わせたトイレ誘導を行っている。	基本は自立に向けての支援を実施しており、できる限りトイレで排泄できるよう注意している。声かけや時間帯などパターンを把握し、一人一人に合わせたトイレ誘導を行っている。居室のトイレを使用している利用者もおられ、本人の力を活かした支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者については、水分摂取量や運動など工夫している。食事にも繊維の多い食材を使用するなど、自然排便につながるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を希望される方には毎日入浴して頂いたり、時間帯も本人の希望やタイミングに合わせて支援している。入浴を嫌がられる方には、いろいろな話題で声かけをし、職員との会話を楽しみながら入浴できるように促し、清潔保持に努めている。	基本は毎日入浴を実施しているが、本人の体調や希望に添って支援をしている。冬場は寒いと言われ、毎日は遠慮される方も多い。入浴タイムは本人がリラックスできる時間なので、コミュニケーションを図れるようにマンツーマンで介助を行っている。着替えの服も利用者と一緒に選ぶようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、個々の生活習慣を尊重しながら対応している。眠れないときは、利用者の不安な気持ちを傾聴し、寄り添うケアを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人ひとりの薬を把握し、追加や変更の際も必ず情報共有して、飲み忘れや間違いのないようにしている。利用者の症状等変化があれば、すぐに看護スタッフに伝え、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や普段の会話の中から、役割として頂けることや、興味のあることを汲み取り、本人がやりがいや楽しみを感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春のお花見や近くの小学校の運動会、神社への初詣など、季節ごとに外出の機会を設け、地域にも少しずつ受け入れられている。お盆やお正月のご自宅への帰省などもご家族とよく相談し、家族も本人も不安なく過ごせるよう支援している。	気候のいい時には、近くの観光地(武蔵の里)やイベントなどドライブを兼ねた外出や買い物に行くこともある。紅葉狩りや初詣など季節毎の外出行事も企画し行っており、喜ばれている。暖かくなれば近隣や敷地内を散歩するなど、外に出る機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、ご家族・本人の希望に合わせてして頂いている。職員と買い物に行った際には、おやつ等をご自分で選んで購入して頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へのお電話は、ご家族の承諾のもと、希望に応じて支援している。携帯電話を持つておられる方もいる。年末には年賀状の作成をして頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、カレンダーを職員と利用者で作成し、居間に飾っている。温度管理は常に行い、快適に過ごせるようにしている。	フロアは広く、ゆったりとしており、窓から山々の自然が広がっている。畳のスペースが設置されており、利用者が腰をかけ、話をする事ができる。除菌のできる加湿器の活用など感染症対策も行っている。壁には利用者が作成した毎月のカレンダーや作品を掲示したり、生け花を飾る等季節を感じられるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の意思で自由に施設内を利用して頂いている。共用スペースには、食卓の他、ソファーやこたつも用意し、気の合う利用者同士でくつろげるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には布団や家具など、使い慣れた物を持って来て頂いている。ご家族の写真などを飾って頂いたり、自分の部屋として居心地のよいものとなるよう支援している。	居室は広く、大きなクローゼットが設置されている。トイレが設置されている居室もある。入居時に家庭で使い慣れた家具や物を持って来てもらえるよう話をしており、ぬいぐるみや仏壇、写真など個々に自分の部屋を飾っている。家族の希望があれば利用者の居室で泊まることもでき、希望に応じていつでも受け入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差をなくしたり手すりをつけたりと、利用者が移動しやすい構造にしている。「出来る事」の支援として、トイレ等に行かれる時は歩行器なども使用してもらっている。		